

希望の道標

vol.48

取材・文／山下久猛
撮影／吉永智彦何もしなければ何も始まらない。
一歩踏み出す勇気をもってください。

ONE JAPAN共同発起人・代表／濱松 誠

Makoto Hamamatsu
はままつまこと

1982年京都府生まれ。2006年、大阪外国語大学インディ語科(当時)を卒業後、パナソニックに入社。北米向け薄型テレビのマーケティング、インドの事業推進に従事した後、2012年に本社人事へ異動し、パナソニックグループの採用戦略や人材開発領域に従事。2012年、組織活性化を狙いとした有志の会「One Panasonic」を発足。社内を中心に3000人の規模まで拡大させる。2016年には大手企業の若手・中堅有志社員が集まるコミュニティ「ONE JAPAN」を2人の同志と共同で立ち上げ、共同代表に就任。2018年には「ONE JAPAN」のこれまでの活動の軌跡、成果を記した『仕事はもっと楽しくできる』(プレジデント社)が出版。2018年12月末にパナソニックを退職し、2019年には妻と共に日本一周、世界一周の旅に出る予定。

○ONE JAPAN <https://onejapan.jp/>

大学卒業後、世界有数の大企業であるパナソニックに就職しました。しかし、実際に働いてみると、組織を超えた横の交流やつながりがない、やりたいことを提案してもなかなか受け入れてもらえないなど、大企業ならではの弊害に気がきました。このような場合、社員にできることは3つしかありません。1. 辞めるか、2. 染まるか、3. 変えるか、です。私は1も2も嫌だったので、変えるという選択肢を取ることにしました。具体的には、入社6年目の時に「One Panasonic」という若手主体の有志団体を立ち上げたのです。この団体では、若手同士、経営幹部と若手、さまざまな部署の部課長クラスと若手社員がつながる機会を作り、縦、横、斜めすべての関係で交流を重ねることで、部署や役職の壁を越えて自由に意見を言える関係性を作っていました。この活動をSNSで発信していると、他の多くの大企業の若手から「同じ悩みを抱えているからぜひ一緒に活動したい」というメッセージが寄せられたため、2012年、「ONE JAPAN」を立ち上げました。目的は基本的に「One Panasonic」と同じで、大企業病の打破によっていきいきと楽しく働ける会社員を一人でも増やし、日本をよりよくするというものです。「ONE JAPAN」は立ち上げ後、どんどん参加企業が増え、現在では50社1700人にまで大きくなっています。これまでの活動で、自分から発信したり組織に働きかけるなど、一歩踏み出す若手が確実に増えており、目指すべき目標に近づいているという手応えを感じています。

私はこれまで、One Panasonicの代表、そしてONE JAPANの共同発起人の一人としてこの活動にプライベートのほとんどを捧げてきました。しかし今年いっぱいパナソニックを退職し、妻と一緒にまずは日本一周、その後世界一周の旅に出る決断をしました。こう言うと、上記のような実績も出してきた大企業を辞めてそんなことをするなんて大丈夫かと思う人もいるでしょう。でも私はこの決断を下す時、何の不安も迷いもありませんでした。むしろワクワク、楽しみという感情の方が断然大きい。なぜなら、人生の選択肢は無限にあって、何を選んだとしても間違いじゃない。そのうえで、この旅ではこれまで学んできたことを一度捨てて一から新しいことを学び直すことによって、自分自身をアップデートすることができるから。そして、日本や世界を回って実際に企業で働くさまざまな人に会うなどして、自分の目と耳と足で得た世界の最新の働き方や社会の状況をONE JAPANにフィードバックすることで、この後の人生で、働く人々を、企業を、そして日本をさらによりよく変えることができると信じているんです。今は時代の転換期で、従来の古い価値観にとらわれず、新しい価値観で働く人が増え始めています。こんな時代だからこそ、何も行動を起こさないことこそが最大のリスクだと思うんです。何より人生は一度きりなので、本当にやりたいことはやるべき。ずっと後になって悔やみたくないです。だから私にとっては、これをやらない理由がないのです。

私のこれまでの経験から高校生の皆さんに伝えたいことは、1つはやりたいことがあるならどんな小さなことでもいいので一歩踏み出してくださいということ。口先ばかりで何もやらなかったら何も成し遂げることはできません。失敗してもいいのです。何もしないことこそが真の失敗です。行動したことによる失敗はむしろ評価していい。もう1つは、がんばっている人の足を引っ張ったり、バカにすることだけは絶対にやめてほしい。やはり人は応援されたり褒められるとやる気が出るので、いいことをやった人にはよくやったね、素晴らしいねとぜひ伝えてあげてください。これらは人のためになるだけではなく、いつか必ず自分自身に戻ってきますから。